

【様式】

2019年度 学校マネジメントシート

学校名（ 四日市商業高校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		校訓である「至誠」の精神のもと、商業教育・普通教育を通じて知・徳・体の健全な成長を促し、地域と連携しながら専門性の高い社会人を輩出できる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	21世紀社会で活用できる知識・スキル・専門性を備えるとともに、主体性・協働性・行動力を持ちながらも礼儀やマナーをしっかりとわきまえ、良好な人間関係を築き社会での問題を解決できる能力を持ち活躍できる人材
	ありたい 教職員像	よりよい教育活動を目指し、創意工夫し前向きに「やってみよう」の精神で取り組むとともに、生徒一人一人を大切に、地域や保護者とも連携し、協働性をもって組織として力を十分に発揮できる職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>【生徒】約55%の生徒が地元企業への就職を希望し、約45%が上級学校への進学を希望している。就職では特に事務職に就くことを望む生徒が多い。安定した学習環境を望み、各種検定や資格取得、充実したクラブ活動に期待している生徒が多い。</p> <p>【保護者】学力の向上、挨拶やマナー等の社会性の向上を期待するとともに、希望進路の実現には強い関心がある。また、安心・安全の観点から学校からの情報発信の充実を望む声が多い。</p> <p>【企業】商業関係のスキルはもとより、挨拶や人間関係構築などコミュニケーション能力を備えた人材の提供を望む声が多い。</p> <p>【地域】地域社会の行事などへの生徒の参加、参画による連携や交流を通じて地域活性化への寄与が期待される。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>【家庭】適切な連絡や学校からの情報提供、相談体制の充実</p> <p>【中学校】卒業生による説明会参加等を通じて実際の高校生活にかかわる情報提供</p> <p>【企業】就職後のアフターフォローと生徒情報の提供</p> <p>【大学等】高校からの継続した連携、大学の紹介等の機会設定</p> <p>【地域社会】開かれた学校経営。地域との連絡や共同活動、情報共有機会の増加</p>		<p>【家庭】学校行事やPTA活動への積極的参加。学校教育への理解と支援及び確実な連絡体制。</p> <p>【中学校】適切な進路指導、キャリア教育の実践。生徒についての緊密な情報交換。</p> <p>【企業】積極的求人、インターンシップ等への理解・協力。</p> <p>【大学等】卒業生の受け入れのほか、講師派遣や高校生への直接指導など高大連携。キャリア教育・授業改善への取り組み。</p> <p>【地域社会】通学等の安全確保や学校への様々な支援、応援。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> 活動指標がしっかり出ているのはよい。 地域連携が目指されているが中学校との連携においてももう少しできることがあったのではないかと思う。来年度はもっとコミュニケーションをとって連携を深めていきたい。 スマホの扱いについては時代の変化に応じて考えていったほうがよいのではないか。 女子が多いこともあり、特に冬場の帰宅についてさらなる配慮をお願いしたい。 本校の挨拶運動は非常に良い。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の充実が最も急がれる。基礎学力の底上げはもとより、地域と連携した取り組みや商業の授業内容や活動内容の質の向上が求められる。 「人づくり」については四商の良き伝統を大切にしながら、基本的な生活習慣の啓発、改善のみならず質の高いビジネスマナーの習得を本校の武器にしていく。 クラブ活動については学習とのバランスや教員の過度な負担の軽減を考え、精選していく（三重国体に向けた強化との整合性をどうするか） 	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> 各教科での学習内容検討や授業力向上の組織的な取り組みが必要。教科会とカリキュラム委員会との定期的な連携に取り組む。 本年度効果のあった取り組み（地域連携、課題研究）をさらに進めるとともに、メディアの活用、広報活動にも積極的に取り組みPRに努める必要がある。 教員の仕事の偏りや過度な時間外労働の縮減への取り組み、職員の情報共有・コミュニケーション機会を増やす。
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 校訓である「至誠」の示す人格形成を大切にしながら、21世紀社会で求められる資質・能力を研究したうえで「本校の目指す人づくり像」を明らかにしていく。このようなカリキュラムマネジメントに基づき、自らの授業改善、教育改善を教員自身が考えていく。とりわけ今年度は生徒の主体性を向上させる取り組みを進めていきたい。 「思考力」「表現力」「課題発見・解決力」「専門性」「協働性」といった「今後の社会で生き抜く力」「社会に貢献する力」を学校教育全体ではぐくんでいく。（授業、特別活動、部活動を通じた資質・能力の向上） 校内の仲間、教員など狭い範囲にとどまることなく「地域の大人」「他校生徒」など「他者」との対話・交流を通じて積極的、主体的な人間性や課題発見・解決力をはぐくむ探究活動に取り組む（課題探究、地域連携などの質の向上と生徒の積極的な参加） 三重国体に向けた部活動の強化と人間力向上のための部活動・特別活動とのバランスを考えて活動に取り組む。その中でいかにして教員の負担軽減をはかるかを考え、具体的な実践に変えていきたい。（部活動マネジメントを絵に描いた餅にせず中期的な課題解決につなげる）
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 教員の仕事の偏重を解決するための具体的な方策に取り組む。そのための聞き取りとアイデア集め。また、生徒の主体性を高めることによる教員の負担軽減にも取り組む必要がある。 新たな傾向の資格試験や共通テスト、新学習指導要領への対応を進める。カリキュラム委員会と各教員との連携を深め、具体的な対策を提示する。 情報マネジメント科の未来図を具体化させ、授業改善・進路指導につなげることで「就職も進学も強い四商」「多様な進路」「いかにして地域貢献できる学校にするか」を内外にPRし、生徒確保と地域におけるさらなる高い評価につなげる。 資格取得と部活動のバランス、基礎知識習得と思考力・表現力など活用力のバランス、教員の負担軽減のためのスクラップアンドビルドなど、協力してバランスのとれた学校運営の方策を実践していく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の向上と学習の充実	<p>◆学力向上をはかるため、学びの基礎診断を各学年2回(3年生は1回)実施する</p> <p>【活動指標】学びの基礎診断を全学年で実施。その事前・事後学習を実施。結果を教科指導・進路指導に生かすため勉強会を実施。</p> <p>【成果指標】年2回の結果比較で資質・能力の進捗状況をはかる。5月以後に教員の勉強会を実施して指導に生かす。</p> <p>◆実社会で求められている商業教育について調査し、現行のカリキュラムの問題点を洗い出し、授業改善に取り組む。</p> <p>【活動指標】H30年度卒業生の就労先企業にアンケートを実施</p>	<p>◆学びの基礎診断は予定通り実施できた。</p> <p>進路・学年・教科での共有につながり継続的な学力向上のための指導ができた。</p> <p>◆卒業生へのアンケートから分析を行い、コミュニケーション能力・プレゼン能力の育成が求められていることが</p>	※

<p>キャリア教育と探究活動の充実</p> <p>人づくりの「深化」</p>	<p>する。</p> <p>【成果指標】アンケート結果をもとに改善が必要な分野で新学習指導要領下での授業計画に反映させる。</p> <p>◆教科会の活用、授業参観週間、公開授業の実施により授業力の向上を目指す。</p> <p>【活動指標】教科会の活用、授業参観、公開授業を実施。生徒へのアンケートを取る。</p> <p>【成果指標】公開授業のべ 5 日以上、アンケートによる生徒の授業理解度 80%以上。</p> <p>◆21 世紀社会で生きていくための思考力・専門性・問題発見解決能力を高めるため多くの生徒が主体的に校内外の活動に参加し、行動し、考える機会を増やす。</p> <p>【活動指標】校内においては担任面談、外部講師のガイダンス、適性検査などを実施し、早期からのキャリア意識を醸成するとともに、地域行事・インターンシップ・課題研究など探究活動を積極的に行う。</p> <p>【成果指標】年度末に生徒・教員に加え連携相手先にもアンケート等を実施することで振り返りにつなげる。</p> <p>◆社会で有為に生きるための基礎づくり・人間づくりに努め、その意義を生徒に浸透させる。</p> <p>【活動指標】風紀週番制度を社会に出るためのトレーニングととらえ、活動に丁寧に取り組み、生徒一人ひとりの責任感・協調性を養う。また、挨拶の励行、遅刻者減少、交通マナーの向上を進めるとともに、思いやりと命を大切にする気持ちを育てる。</p> <p>【成果指標】当番忘れによるやり直し率 6%以下、遅刻率 0.1%以下、また生徒アンケートで基本的な生活習慣や礼儀がどれだけ身についたかを見る。</p> <p>◆部活動・生徒会活動の充実と部活動を通じた人づくりを行う。</p> <p>【活動指標】全クラブが活発に活動し、部活動・生徒会活動を通じて生徒の主体性が向上すること。</p> <p>【成果指標】東海大会出場 15 クラブ以上、全国大会出場 10 クラブ以上、生活アンケートでの「部活動への取り組みが熱心になった」85%以上。生徒が主体的に活動する生徒会活動。</p>	<p>わかり、授業改善。特にビジネスマネジメントにおいて経営分析を軸にした探究活動を取り入れ、生徒商業研究大会でも発表。大きな成果を得た。</p> <p>◆アンケート結果がまだ(後で記入)公開授業 10 日間、授業参観週間2週間で予定を上回る。</p> <p>◆まだまだ不十分だが、外部連携は進み、質的にも自ら考え、企画するなど探究的要素が高まる。主体性を高める企画も実施。相手先からも高い評価を得た。</p> <p>◆やり直し率は 8.2%で目標は未達成。遅刻率も 0.24%で残念ながら未達成。来年度も引き続き各生徒の自覚と責任を促していく。</p> <p>◆東海大会、全国大会出場クラブは全国 12、東海 16 と県内のみならず全国レベルでの強さが見られる。生徒会役員を中心にまだまだ不十分ではあるが主体性の芽は出てきていると思う。</p>
--	---	---

改善課題

意欲ある教員と生徒の精神的成長で未来社会における能力を付けて行く方向での教育活動は前進することができた。部活動等も個人レベルで日本代表や国際大会への参加など成果も上がっている。一方で、多様な生徒が入学する中で一律の生徒指導は難しい時代に入っていると感じる。細かい約束や規律を守るなどの指導は粘り強くやっていくしかないと思う。また、外部におけるキャリア教育への参加などはまだ一部生徒にとどまっており、この層を厚くしていき地域・社会に貢献できる生徒を増やしていきたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
魅力化アップ と将来像検討	<p>◆在校生の意見を積極的に取り入れ、学校案内やポスター・チラシの効果について検証する。内容について、アンケートの結果も加味しながら検討する。</p> <p>【活動指標】今年度は学校案内・ポスターは年1回、チラシは年2回発行する。課題研究の各講座に協力してもらい、高校生活入門講座の充実を図る。情報マネジメント科の生徒の満足度を調査し、内容の見直しを進めて情報発信を充実させる。</p> <p>【成果指標】中学生へのアンケート、在校生への調査により情報マネジメント科の倍率をあげ、イメージアップを図る。</p> <p>【活動指標】四商検討委員会を定期的実施し、新学習指導要領と絡めて本校の将来像を具体的に描く。</p> <p>【成果指標】年間を通じて検討委員会を実施し、職員に具体的な施策を提言する。</p>	<p>◆今年度は「働き方改革」として11月の学校説明会を廃止、個別の学校訪問が増えたが教員の負担減になった。刊行物に「情報マネジメント」の情報を増やした。中学生の本校志望者は中3生徒減少の中で増加している。</p> <p>◆四商検討委員会で本校将来目標を設定。コミュニケーション力、課題解決力、主体性などに加えて読解力の向上を目指す方向性を提言する。</p> <p>◆商業科検討委員会は5回実施だが、意見交換は頻繁に行っている。総合的な探究の時間の趣旨をとらえた課題研究の在り方の理解は深めることができた。検定についても1.2年生に集中するように改定するなど生徒、指導者とも余裕が生まれている。</p> <p>◆特別支援委員会、人権委員会、保健部などそれぞれでの目標を達成するとともに、生徒ひとり一人に寄り添う雰囲気醸</p>	
生徒の資質・ 能力の向上と学 習内容の検討	<p>◆課題研究を整理し、生徒のどのような資質・能力を向上させるかを検討、実践につなげる。</p> <p>【活動指標】商業科検討委員会を定期的実施し、課題研究の内容を精査する。</p> <p>【成果指標】研究の成果を校内、校外でプレゼンテーションして表現力や探究心を向上させる。</p> <p>◆検定学習週間の在り方について具体的に検討する。</p> <p>【活動指標】商業科検討委員会を定期的実施し、検定学習週間の有効利用について検討する。</p> <p>【成果指標】検定学習習慣についての具体的なビジョンを教科会で提案する。</p>	<p>◆今年度は「働き方改革」として11月の学校説明会を廃止、個別の学校訪問が増えたが教員の負担減になった。刊行物に「情報マネジメント」の情報を増やした。中学生の本校志望者は中3生徒減少の中で増加している。</p> <p>◆四商検討委員会で本校将来目標を設定。コミュニケーション力、課題解決力、主体性などに加えて読解力の向上を目指す方向性を提言する。</p> <p>◆商業科検討委員会は5回実施だが、意見交換は頻繁に行っている。総合的な探究の時間の趣旨をとらえた課題研究の在り方の理解は深めることができた。検定についても1.2年生に集中するように改定するなど生徒、指導者とも余裕が生まれている。</p> <p>◆特別支援委員会、人権委員会、保健部などそれぞれでの目標を達成するとともに、生徒ひとり一人に寄り添う雰囲気醸</p>	※
生徒ひとり一 人を大切に	<p>◆特別支援委員会や教科担当者会議を通じて生徒一人ひとりの状況把握、情報交換、共有に努める。</p> <p>【活動指標】特別支援委員会、教科担当者会議で連携を円滑にし、生徒の状況に応じた配慮を行う。また緊急時対応もスムーズに行えるようにする。</p> <p>【成果指標】特別支援委員会を年間5回以上、具体的配慮の実績の積み上げ。</p> <p>【活動指標】保健部から教員への情報発信を行い、教員のカウン</p>	<p>◆今年度は「働き方改革」として11月の学校説明会を廃止、個別の学校訪問が増えたが教員の負担減になった。刊行物に「情報マネジメント」の情報を増やした。中学生の本校志望者は中3生徒減少の中で増加している。</p> <p>◆四商検討委員会で本校将来目標を設定。コミュニケーション力、課題解決力、主体性などに加えて読解力の向上を目指す方向性を提言する。</p> <p>◆商業科検討委員会は5回実施だが、意見交換は頻繁に行っている。総合的な探究の時間の趣旨をとらえた課題研究の在り方の理解は深めることができた。検定についても1.2年生に集中するように改定するなど生徒、指導者とも余裕が生まれている。</p> <p>◆特別支援委員会、人権委員会、保健部などそれぞれでの目標を達成するとともに、生徒ひとり一人に寄り添う雰囲気醸</p>	※

働きやすい職場づくり	<p>セリングマインドや緊急対応力を向上する。 【成果指標】保健便りの発行を学期に1回以上行う。</p> <p>◆人権教育を充実し、命を大切に教育を大切にすること。 【活動指標】学年ごとにテーマを決め、人権HRや講演会、教員の現職教育を行う。外部連携によって生徒・教員の人権意識を高める。 【成果指標】各学年年間2回ずつの人権HRの実施。教員も年間2回の研修を実施する。</p> <p>◆過重労働を減らし、教員同士のコミュニケーションを図ることで働きやすい環境を作り出す。 【活動指標】すべての会議を1時間以内で終了する。定時退校日を月1回以上、部活動の週1回以上の休養日を設定。国体への強化と休養とのバランスのとれた活動を目指す。 【成果指標】昨年度比時間外労働を一人当たり1時間削減。休暇取得を年0.5日増加。月80時間を超える時間外労働の教員人数を50%削減。</p>	<p>成、教員の対応力の強化、研修による力量アップなど目立たないが着実な成果を上げてもらった。</p> <p>◆活動目標は達成できたが、80時間オーバーの教員50%削減はそもそもの目標設定が無理があったとは思っている。しかし、大切な項目なのでさらなる検討を加え過重労働を減らせるよう継続して取り組みたい。</p>
------------	---	--

改善課題

本校は人権、特別支援、保健などひとり一人に寄り添う教育は非常に機動力に富み、質も高い。研修によって教員個人レベルでも高まっているが、学校教育の今後の一番肝になる部分なので、さらなる敷衍が必要。働き方改革においては仕事のスクラップとしていくつかの企画を減らすことができた。しかし、一番大きな部活動指導について、大きな壁をどのように超えていくか。改善に向けた大きな課題である。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの基礎診断」をベースとしたエビデンスベースの授業改善、「課題研究」や通常授業内での探究型授業による思考力・プレゼン力等能力開発の方向性に対して高い評価をいただいた。 ・多様な生徒、支援を必要とするケースの増加など数字未達成の部分は家庭の問題も大きく、保護者との連携、カウンセラーなど外部との連携などチーム学校として取り組んでいく必要性を指摘いただいた。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>授業改善については今年度の成果を検証してさらに良いものを作り上げていきたい。新学習指導要領を契機として商業科目と普通科目との有機的なつながりを形成することで生徒の能力開発（思考力、判断力、表現力に加えて本校独自の主体性、読解力の向上）を行っていきたい。来年度は新学習指導要領における教育課程作成をその契機としていきたい。</p>
学校運営についての改善策	<p>人権、教育相談、保健、生徒指導などのひとり一人に寄り添う教育は外部との連携を密にしてチーム学校としての運営につなげたい。クラス減による校内組織の見直しは必須であり、ひとり一人の教員が「生徒のために」しかし「できる限り凝縮した時間で」四日市商業としての進化のため協力体制を作り上げたい。</p>